



図-1 夢洲工事地区に広がる広大な水域。この水域ではツツイトモ、ホザキノフサモなどの水草が確認されたが、現在は埋め立てが進みほとんど残っていない。

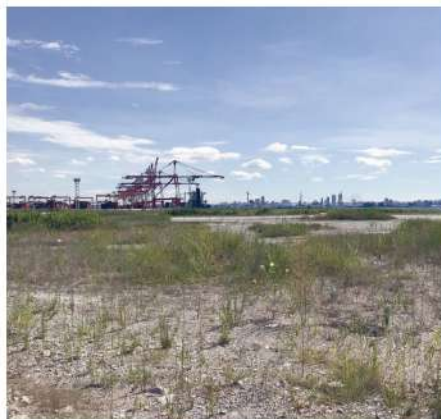


図-2 夢洲にできた荒地・草地環境。



図-3 ハマサジ。大阪府レッドデータリストでは絶滅危惧Ⅰ類。夢洲では1株のみ発見。

1. 夢洲

夢洲は大阪湾に浮かぶ人工島です。1977年に埋め立てが許可、1991年には基盤整備事業が開始され、現在も土地の造成は続いています(大阪市, 2020)。また最近では、2025年の万博の会場として、また、統合型リゾート(IR)の誘致場所としてメディアでも取り上げられる機会が増えています。

人工島…というと、広大な土地に残土が積み上げられていたり、ゴミの山の上をカモメが舞っていたり…というような光景を思い浮かべる方も多いかもしれませんが、しかし、本誌でも度々紹介されているように、夢洲には、ある程度造成がなされた後で長期間そのままになっているような場所も多く、そのような場所では豊かな自然が形成されています。大阪府や大阪市でも、このことについては認識されており、大阪府のレッドデータリスト2014では、南港野鳥園及び夢洲が生物多様性ホットスポット(希少な野生動物植物

が生息・生育し、種の多様性が高い地域)の一つとしてあげられており、さらにその中でも、Aランク(規模的・質的に優れており、貴重性の程度が最も高く、全国的価値に相当するもの)とされています(大阪府, 2014)。Aランクのホットスポットは大阪府内に16カ所ありますが、金剛山、淀川のワンド群など、いずれも大阪府を代表する自然環境が取り上げられており、その中に人工島である夢洲も含まれているわけです。大阪市でも、大阪市生物多様性戦略の中で、大阪府レッドリストを引用する形で夢洲を重要な自然環境として取り上げています(大阪市, 2020)。

2. 夢洲の自然環境

私が初めて夢洲に調査で入ったのは、2019年の春です。夢洲がレッドリストに取り上げられている環境であることや、鳥類の生息地として重要な場所であるということは知ってはいたのですが、夢洲における植

物や訪花昆虫などの情報(私の専門としている分野)は、当時ほとんど無く、興味としては、珍しい外来植物はあるだろう…といった程度で、あまり期待はしていませんでした。しかし、2025年の万博会場に決まって以降、急ピッチで造成工事が進むことが予想されたため、その前にどんな植物がどの程度生育しているのか、大雑把でもいいから把握しておきたい、という思いから調査に入りました。当初は、2ヶ月に1回程度入り、1年で5、6回の調査で、植物相・訪花昆虫相をざっくりとおさえてみよう、という計画でした。ところが、調査は2020年に入った現在も続いており、調査回数も合計40回に迫ろうかという勢いです(今、教えてみて、ちょっと引きました…)。当初、抱いていた思いが、如何にいい意味で裏切られたか、よくわかると思います。

実際に夢洲に入ってみると、まず、広大な水域があるのに驚きました(図-1)。しかも、水草も点在して

おり、水域が形成されてからある程度時間がたっているように見えました。水草はしばしば水鳥とともに移動してきます。夢洲は水鳥の飛来数で、あまり期待はしていませんでした。しかしして貴重な水草も見つかるかもしれない、という期待が持てました。このほかには、埋め立て地ですから当然と言えば当然ですが、広大な草地・荒地が広がっていました(図-2)。草地・荒地は、環境的には全国で減少しており、実は貴重なベースで調査に入り、1年で5、6回の調査で、植物相・訪花昆虫相をざっくりとおさえてみよう、という計画でした。ところが、調査は2020年に入った現在も続いており、調査回数も合計40回に迫ろうかという勢いです(今、教えてみて、ちょっと引きました…)。当初、抱いていた思いが、如何にいい意味で裏切られたか、よくわかると思います。

す。つまり、現在見られる植物はすべて非意図的に、土砂などと共に持ち込まれたものか、鳥類などの動物が持ち込んだもの、ということになるのです。夢洲工事区域の植物相や、訪花昆虫と開花植物との関係については、別に公表する予定ですのでお楽しみに。

さて、ちょっと横道にそれてしまいましたが、夢洲で見られる水域や湿地環境についてもう少し詳しく見ていきたいと思います。広大な水域が広がっている…と書きましたが、多くは水深が数十cm~1m程度の浅い水たまり的な環境です。造成地のくぼんだところに雨水がたまり、できあがったものです(図-1)。より深いため池的な水域もあります。このような水域は、2020年現在、夢洲の西端に残されています。これらの水域よりもっと浅く、降水量が少ない月は干上がってしまうような湿地も至る所にできています。これらの水域の多くは、いずれれもわずかに塩分を含んでいるのが



図-4 夢洲の塩性湿地に見られた外来植物たち。
上左：ホウキギク、上右：ナルトサワギク、
下左：ウシオハナツメクサ、下右：アレチムラサキ。



図-5 ツツイトモ。環境省レッドデータブックでは絶滅危惧II類とされる。大阪府レッドリストには掲載が無いが、今後掲載を検討すべき種の一つ。



図-6 リュウノヒゲモ。環境省RDBでは絶滅危惧II類。発行後に確認されたため大阪府レッドリストには未掲載。



図-7 夢洲で再発見されたカワツルモ。右下はその果実。

特徴で、塩沼地や塩性湿地と呼ばれます。

3.全国的に減少する塩性湿地とそこに生育する植物

塩性湿地は全国的に減少が続いている環境です(干潟も塩性湿地に含める場合もありますが、ここでは、干潟よりも潮・波の影響を受けにくい水域・湿地に限って扱います)。このような湿地は、河川の河口部、海岸の後背地、海岸近くの平野部などに形成されますが、都市化に伴い、あるいは工場などの進出により、真っ先に開発されてしまうからです。大阪湾岸では、かつてはこのような塩性湿地が広く見られたはずですが、現在では、河川の河口部のわずかな範囲に残されているに過ぎません。塩性湿地にはその環境でしか見られない独特の植物が育っていますが、大阪では上記のような状況ですので、塩性湿地を好む植物は、ことごとく絶滅か、それに近い状態になってしまっていま

す。例えばハママツナ、ハマサジ(図-3)は、大阪では産地が限られ、南部にわずかに残された小規模な塩性湿地で見られるに過ぎず、絶滅寸前と言ってもよいでしょう。この他、大阪では「絶滅した」と判定された塩性湿地・汽水環境に生育する植物には、ハマボウ、フグド、カワツルモ、イトクズモが、絶滅寸前といえる絶滅危惧I類と判定された植物には、前述のハママツナ、ハマサジの他、ナガミノオニシバ、イセウキヤガラがあります。塩性湿地に生育する植物は、分布するもののほとんどが、大阪府レッドリストに掲載されているような状況です。

4.夢洲の塩性湿地で確認された植物たち

夢洲の塩性湿地ではどんな植物が見つかったのでしょうか。もっとも広く分布していたのはウシオハナツメクサ、アレチムラサキ、ナルトサワギク、ホウキギクなどの外来植物でした(図-4)。これらの植物はやや

湿った湿地を中心に至るところで群落を作っていました。ナルトサワギクは海岸近くの荒地や、造成間もない道路沿いの斜面などに多いですが、夢洲では塩性湿地にだけでなく、様々な環境で見られます。夢洲南部にわずかに残されたヨシ群落周辺では、ウラギク(大阪府レッドリスト:準絶滅危惧)も確認できました。大阪北部では、貴重な生育地の一つです。もっと水量が多い水たまり、ため池的な環境からはさらに貴重な植物が見つかりました。2019年当時、もっとも広く分布していたのはツツイトモ(図-5)でした。ツツイトモは、夢洲では非常に多く、ある程度水深のある場所では大体見ることができたのですが、水域の埋め立てに伴い、2020年では生育場所がかなり減少しました。大阪府に残されている環境は多くありません。このほか、大阪では2例目の記録となるリュウノヒゲモ(図-6)も確認されました。リュウノヒゲモは大阪府のレッドリスト発行後に新し

く生育が確認された植物です。このほか水草では、ササバモ、ホザキノフサモが確認されています。

さらに、2020年の調査で大きな発見がありました。大阪では1996年以来確認されておらず、生育適地も皆無なことから「絶滅」と判定されたカワツルモ(図-7)が見つかったのです。生育地は1カ所のみで、その場所も非常に狭い範囲です。2019年と同じ場所を調べていますが、その際には確認できませんでした。おそらく水底で眠っていた種子が、攪乱もしくは水質の変化により発芽したものと考えられます。現在確認されているのは、大阪では夢洲のみ。近畿地方に範囲を広げても、現存している場所は極めて限られる、非常に貴重な植物です。これらの夢洲で確認された水草類については現在、別途投稿中です(引用参照)。

5.さいごに

カワツルモが確認されたのは、

2025年大阪万博の開催予定地の一角です。カワツルモをはじめ、汽水域に生育する水草は、条件がよければすぐに繁茂しますが、条件が悪くなると、水底で休眠する、あるいはその場所からは消滅してしまうものも多く見られます。水鳥などにより他の場所に運ばれ、そこで新たな個体群を作ること、ある一定の地域全体で個体群を維持しているのかもしれませんが。そうすると、生育自体が不安定な水草を移植等により保全するのは極めて困難なことで、生育環境をなるべく多く残しておくことが保全につながる唯一の方法といえるでしょう。夢洲の場合、水鳥が飛来しやすいように、隣接するヨシ原も含めて広範囲を保全する必要があります。ヨシ原自体も大阪府下ではまとまった群落が減少しており、貴重な存在です。

2025年大阪万博は、持続可能な開発目標(SDGs)を「目指すもの」として掲げています。SDGsの中には、「海・陸の豊かさを守る」とい

う目標も含まれています。さらに、冒頭でも述べたように、夢洲は大阪府・大阪市ともに生物多様性上、重要な自然環境と位置づけています。万博を行うことはよいと思いますが、掲げている目標や、作成したレッドデータリスト、生物多様性戦略での判断をきちんと認識し、重要な環境は保全を図っていくべきでしょう。

引用

長谷川匡弘・植村修二(投稿中) 大阪市夢洲で確認された水草 ～大阪府絶滅種・カワツルモの再発見を含む～、大阪市(2020)大阪港埋立事業について <https://www.city.osaka.lg.jp/port/cmsfiles/contents/0000211/211655/honpen18-27.pdf> (2020年10月25日閲覧)
大阪市(2020)大阪市生物多様性戦略～生きもんえもんうまいもん賑やかなまち大阪～、<https://www.city.osaka.lg.jp/kankyo/page/0000067896.html> (2020年10月25日閲覧)
大阪府(2014)大阪府レッドリスト2014、大阪府。